

事務事業名		大船渡市観光物産協会運営支援事業				☒ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興				事業期間		予算科目				
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 観光客の誘致と観光宣伝の充実				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和28 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01	07	01	04	10
根拠法令												
所属	部課名	商工港湾部観光推進室										
	室長名	鈴木 弘										
	係 名											
	担当者	高木隆幸										
	電話	0192-27-3111										
	内線	114										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
一般社団法人大船渡市観光物産協会は、大船渡市の観光事業、物産事業の振興を図り、地域産業並びに文化の発展に寄与する目的で設立された組織で、観光ビジョンの具現化を最大の目的に、主に以下の事業を実施している。(申請に基づいて補助金を交付している。)												
・観光誘客の促進 五葉山ツツジ観賞会及びシャクナゲ観賞会の開催、椿の里・大船渡PR事業、各種イベントへの協賛・支援、広告宣伝事業、ホームページの開設(物産販売)												
・物産販路拡大(各種物産展への出展) ・客船寄港時における観光案内及び物産コーナーの設置。												
・観光客受入態勢の整備(観光物産関係者の指導・研修)												
・業務受託事業(別途業務委託料を支出) 観光案内所の開設、キャンプ場管理運営、観光施設利用促進 観光振興支援員事業による市内観光地のPRと施設管理等												
全体計画(※期間限定複数年度のみ)						総投入量(千円)						
						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金				
								都道府県支出金				
								地方債				
								その他				
								一般財源				
								事業費計(A)				0
						人件費	正規職員従事人数					
							延べ業務時間					
							人件費計(B)				0	
							トータルコスト(A)+(B)				0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
事業運営補助金交付申請書を受領し、事業計画及び予算の内容等を審査した上で補助金を交付している。	ア 交付件数 件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ
前年度実績と同様。	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・一般社団法人大船渡市観光物産協会	名称 単位
	カ 観光物産協会歳入決算額 千円
	キ 協会会員数 人
	ク
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
・一般社団法人大船渡市観光物産協会に円滑に運営してもらう。	名称 単位
・大船渡市を訪れる観光客が増加する。	サ 協会が関わった事業の数 件
	シ 補助率(補助金額/歳入決算額) %
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	ス 観光客入込数(年実績) 千人
・大船渡市を訪れる。	
・魅力がPRされ、認知度が高まる。	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	13,700	11,300	11,000	11,000	11,000	11,000
		事業費計 (A)	千 円	13,700	11,300	11,000	11,000	11,000	11,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	8	8	8	8	8	8	
		人件費計 (B)	千 円	32	32	32	32	32	32	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	13,732	11,332	11,032	11,032	11,032	11,032	
⑤活動指標	ア	件	1	1	1	1	1	1		
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	千円	28,467	36,747	52,678	64,982	68,031	32,500		
	キ	人	376	378	302	235	272	420		
	ク									
⑦成果指標	サ	件	48	39	-	-	-	47		
	シ	%	48.1	37.2	20.9	16.9	14.3	42.1		
	ス	千人		1,016	1,020	1,125	883	1,200		

事務事業ID	0451	事務事業名	大船渡市観光物産協会運営支援事業
--------	------	-------	------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 大船渡市観光物産協会（大船渡市観光協会）の設立（昭和28年8月10日）時と思われる。	
② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ ・観光資源が市内に散在し、観光客のニーズが多様化しているが、受入態勢が整わず通過型の観光となっており、入込観光客数が減少している。 ・事務局を観光物産課（現観光推進室）内に置いていたが、平成15年5月に独立した。 ・平成26年2月、一般社団法人へ法人化した。 ・平成28年度、商工港湾部内の組織機構の見直しにより観光推進室が新設された。（平成27年度までは商業観光課観光物産係が担当）	
③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	観光事業及び物産事業の振興を担っている大船渡市観光物産協会の運営を支援することは、豊かな地域資源を活用した観光の振興を推進している市の政策に直結する。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	市の政策に直結する事業であり、収益事業の拡大を図りつつも、市の支援が必要である。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	公共的団体で、行政や経済産業団体が構成員となり、市内の観光物産事業の振興を担っている大船渡市観光物産協会への支援であり、適切である。	
	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	収益事業の拡大によって、市費の支援費用の圧縮が可能。	
有効性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	観光・物産振興に係る業務委託の総合的な受け皿となっており、休止・廃止した場合、観光振興に係る業務委託事務が煩雑になる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	業務内容が多岐にわたり、類似業務はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	大船渡観光物産教会の収益事業拡大による自主財源の増加によっては削減は可能であると考えられるが、現時点では収益事業等の成果は出ておらず削減は困難。	
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	補助金申請の審査等、必要最小限の事務である。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	公共的団体で、行政や経済産業団体が構成員となっている大船渡市観光物産協会への支援であり、公平・公正である。	

事務事業ID	0451	事務事業名	大船渡市観光物産協会運営支援事業
--------	------	-------	------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 一般社団法人大船渡観光物産協会は、体制整備が課題となっていたが、平成26年度から観光支援員事業により人員が増加され、体制の強化が図られた。 今後は、収益事業の拡大等による、補助金額の削減及び事業運営体制の確立が必要である。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 収益事業の拡大等による、自主財源の確保を目指す。それにより補助金額の削減及び事業運営体制の確立が可能になる。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上	●																															
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 26年度より復興支援員を雇用することにより、体制的には効果的な収益事業を実施する基盤が出来てきている。今後は、事業への有効な取組と、職員等への研修機会の確保による事業充実を図る必要がある。																																	

(職 名)	※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	観光推進室長	鈴木 弘

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 ・現時点においては、(一社)大船渡市観光物産協会の収益事業の拡大による自主財源の確保は困難であると思われる。 ・平成28年度において、総務省の「地域おこし企業人交流プログラム」を活用し、三大都市圏の大企業の社員を、(一社)大船渡市観光物産協会に受入れ、協会の態勢を強化するよう模索している。																		
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) ・協会には、引き続き実践活動を通じて職員の資質のレベルアップを図りながら、収益事業の拡大による自主財源の確保に努めつつ、平成26年度に市が策定した大船渡市観光ビジョンの実践団体の中心としての役割を担ってもらう。 ・市と観光物産協会の今後のあるべき体制や役割分担について協議を行う。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持		●	×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上	○																															
	維持		●	×																													
	低下		×	×																													

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
